

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立第五中学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 全国学力・学習状況調査において、令和4・5年度とも数学の平均正答率は千葉県・全国を下回っている。令和5年度は選択式・短答式の正答率は千葉県・全国を上回っているが、記述式の正答率が低く、無解答率も高い。また、無解答率が高いにもかかわらず、解答時間について、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えている生徒が多く、記述することをすぐに諦めてしまう生徒が多いと分析していた。
- 令和6年度の数学の平均正答率は千葉県・全国を下回っているものの、課題であった記述式問題の正答率を見ると、令和4・5年度よりも千葉県や全国の平均との差が縮まった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 基礎学力を定着させ、自信を付けさせることによって、長文で複数の単元が融合された問題や記述式の問題に取り組む意欲が高まると考えた。
- 学習問題のまとめを生徒に考えさせることを繰り返すことで、諦めずに考えたり記述したりする力や、わかりやすく説明する力が付くと考えた。

3. 具体的な実践

- 単元テスト等で記述式の問題を扱い、記述の内容を評価し、結果を分析する。
- ノートやワークシートに自分の言葉でポイントとなることやまとめを書かせ、記述内容を評価し、振り返りシートの内容から、生徒の変容を分析する。
- 基礎学力を定着させるため、生徒用端末の学習アプリを積極的に活用する。
- 1学年は習熟度別授業、2、3学年は学習サポーターやきり先生とTT指導を実施する。

4. 成果

- 記述式の問題やノート、ワークシートの記述内容の評価を行った結果、自分の言葉で説明しようとする生徒が増え、数学の用語を使ったわかりやすい説明ができるようになってきた。
- 習熟度別授業やTT指導、生徒用端末の学習アプリの活用により、低学力の生徒への手厚い指導ができた。

◆担当指導主事から

- 全国学力・学習状況調査の記述式問題の無解答率の高さに着目し、「諦めずに考える力」の育成に向けて数学科を中心として様々な取組を行ってきた。自分の言葉でまとめを書く場面を意図的に設定したり、単元テストで記述式問題を出題し解答類型を意識して評価したりする取組を行うことで、生徒の表現力が高まり、学力向上につながった。